

## エシカル・ラーニングラボ

部会長：附属高等学校 葭内ありさ  
部会員：附属幼稚園 佐藤寛子・谷地理沙  
附属小学校 足立愛美・築地晶子  
附属中学校 有友愛子  
附属高等学校 葭内ありさ  
協力者：三重大学 村田晋太郎

### 2025年度活動報告

#### 幼稚園

●今年度も中央花壇を畑にし、5歳児を中心に野菜を栽培しました。収穫した野菜を調理して食べたり、園庭の実のなる木（ビワ、柿、夏ミカンなど）から採取した果実を食べたりなど、皆で分け合い食べる機会をたくさん設けました。

●空き箱や牛乳パックなどをご家庭から寄付していただき、教材室に整理・分類して置いておくことで、子ども達が必要なものを選びながら製作に活用しています。材料が少ない時には、一度作ったものを分解して作り変える姿も見られます。廃材になるものを活用しながら、遊びや生活に必要なものを作り出すことが子ども達の暮らしの一部となっています。

●フードドライブ活動は、今年度新たに、中学生が作成したビデオを保護者向けに上映する機会を持ちました。熱心にご覧になる方が多く、「自分事に捉え、発信する姿に感銘を受けました」「子どもから聞かれてもうまく説明できなかったけれど、動画を見て気軽なおすそわけなのだと分かりました」「地元のフードドライブ活動についても初めて調べてみました」などの感想が寄せられました。保護者だけでなく私たち教師にとっても、附属校生との繋がりを感じ、フードドライブについての興味や理解を深める機会となりました。

●おにぎりアクションも引き続き実施しました。小学生が園庭に訪れ、三々五々集まってきた園児に丁寧に説明をしてくれることで、興味を持つきっかけとなっています。

●中学生との交流は、今年度も引き続き実施しました。春は、園児が郊外園で収穫したジャガイモのお裾分けに中学校に出かけ、中庭で中学生との交流を楽しみました。帰りに手作りの梅干しをお土産にいただきました。秋は、中学生が来園し、修学旅行で訪れた岩手のりんごを並べたりんごやさんを開店。クイズや描画のコーナーもあり、最後には、おい

しいりごを一緒に味わう時間ももつことができました。冬には、中学生から小包が届きました。「何が入っているんだろう？」とわくわくしながら開けると、色とりどりに染められた毛糸が、やさしいメッセージ付きでたくさん入っていて、園児たちは大喜び。早速、マフラーやミサンガ作りに使わせていただきました。

小包と一緒に届いたりごを使ったおやつレシピ（中学生考案）は、保護者が「子どもと一緒につくれそう！」と熱心に見入っていました。今年度は、時間の関係で手紙のやりとりなどは難しかったものの、園児や中学生の様子などを掲示にして共有するなどし、つながりのある自然な交流になっていくように工夫しました。



## 小学校

### ●おにぎりアクション

家庭科で炊飯について学習したことで、SDGs に関する学習をしたことを関連させて、5年生が炊飯したご飯はおにぎりにして「おにぎりアクション」に参加しました。さらに、その輪を広げるため、幼稚園や中学校、高等学校、大学にも参加を呼びかけようと、ポスターを作って配りました。幼稚園には園庭でお知らせをさせていただきました。

### ●フードドライブ

10月にフードドライブに参加しました。その事前学習として、夏休みはフードドライブについての調べ学習を実施し、夏休み明けの9月にはお茶大 SDGs 推進研究所学生委員さんとの交流授業を行い、学びを深めました。

### ●ペットボトルから綿を作ろう

布の素材に関する学習の中で、ペットボトル（プラスチック）も、化学繊維を使った一部の布も、石油を原料にするものから作られていることを知りました。そこで、ペットボトルを細かくチップにしたものを加熱し遠心力をかけることで、綿を作る実験に取り組みました。ペットボトルは資源ごみとしての回収率が高いけれど、布は燃えるゴミとして捨てられてしまうことが多い現状も鑑みて、布や布製品の SDGs について考え今後の製作でも意識することにしました。

●高校生の考えたエシカルな献立を小学校給食で提供

附属高校の家庭科の学習と連携して、高校1年生が考えたエシカルな献立を小学校の給食で提供しました（計3回）。だしをとったあとの鰹節や昆布を使った混ぜご飯や、平飼いの卵を使った汁物、大根やかぶの葉を活用した料理を出しました。

献立を考えた高校生も、小学校で一緒に給食を食べました。



中学校

●中学校3年生が2023年3月末日で解散した南三陸ミシン工房（東日本大震災で被災した女性の自立を支援する団体）から教材を提供していただいて製作していた「がんばっぺしポーチ」のノウハウを受け継ぎ、「NEW がんばっぺしポーチ」を製作しました。今年度は、修学旅行で訪問した岩手県花巻市のるんびにい美術館のアトリエで活動されているアーティストの方の作品等の生地（株式会社ヘラルポニー）、岩手県花巻市のルンビニー苑で織られたさをり織りの生地、生徒が自分で織ったさをり織りの生地の中から自分で選んだ生地を使い、色とりも手触りもさまざまな自分だけのポーチを完成させました。

●中学校3年生が修学旅行で農作業体験を行った岩手県花巻市から取り寄せたりんごを幼稚園にりんごやさんとして届けに行きました。いつものお裾分け交流のとき時よりもたくさん時間を幼稚園のみなさんと過ごすことができました。後日、岩手県のりんごを使ったおやつレシピを考えて試作をして1人1枚ずつレシピを作り、完成したレシピを幼稚園に届けました。

●中学校3年生がこれまで幼稚園のみんなからもらった手紙を読んで、白い毛糸を食用色素で染めて色とりどりの毛糸を届けました。中学生からは、色の選び方や仕上がりを工夫して幼児が見て楽しいと感じることを意識して取り組む様子が見られました。後日、幼稚園の先生から、幼稚園のみんなが染めた毛糸を手にとったり、毛糸で遊んだりする写真入りのメッセージが届いてとても嬉しそうでした。

●中学校2年生が岩手県釜石市の工場生産されている国産さばの缶詰（サヴァ缶）を使ったレシピを考えて夏休みに家庭での調理に取り組みました。今年度は、フェーズフリー

の視点でもレシピを考えました。夏休みの課題に取り組む頃には、国産さばの缶詰（サヴァ缶）の製造中止が決まり、最後のサヴァ缶での取り組みになると残念な気持ちでしたが、3月8日の「さばの日」に販売が再開され、来年度も取り組みを続けることができることになりました。

●今年度も中学校1年生がおにぎりアクションに参加しました。災害時に役立つパッキングキングでご飯を炊いておにぎりにした後も、家に帰っていろいろなおにぎり作りにチャレンジしました。

●中学校1年生が、小原木 My タコちゃんプロジェクト（梅村マルティナ FS 気仙沼アトリエ）に取り組みました。今年で7年目の取り組みです。思い思いのタコちゃんがしあがりしました。

●中学校1年生が、「エシカル」をテーマに附属高校生との交流授業を行いました。高校生がスライドを用意してくれたり、実物を用意してくれたりして、中学生の理解が深まりました。高校生の中には中学校の卒業生もいて、自分たちが中学校1年生の時のことを思い出して用意してくれたようです。2月14日のバレンタインデーの日に、高校生が紹介してくれたフェアトレードのチョコレートを学年全員でいただきました。

## 高校

●高校3年生は、アフリカ支援のエシカルブランド CLOUDY とのコラボ商品開発の授業を行いました。

- ・3年生が1年次「家庭総合」にて考えた商品案は、アフリカ・ガーナで貧困層の女性や障がい者の方々の雇用を産んでいる、CLOUDY 工場にて製造いただき、2025年10月17日(金)より原宿東急プラザ2階の CLOUDY 店舗で販売されました。商品には高校生の手書きのメッセージが添えられました。商品は、アルゼンチンより旅行のご家族など、海外からのお客様にもお買い求めいただきました。
- ・3年「家庭総合」には CLOUDY スタッフの方が特別講義にいらしてくださいました。ガーナの服のゴミ山での学校建設プロジェクトなど、最新の CLOUDY のお取り組みをお話くださったのち、お茶高コラボ商品の検品やメッセージカード作りなどの販売準備を皆で行いました。

販売された商品は、オーガンジーバックおよびピル入れ付きサニタリーケースです。

詳細は以下の附属高校ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.fz.ocha.ac.jp/fk/report/event/2025/d017057.html>

●高校1年生、2年生が10月におにぎりアクションを他附属高園児と連携して行いました。小学生手作りの啓発ポスターを高校でも掲示しました。

●高校1年生は、10月に小学校の「エシカルな」給食の献立を考えました。栄養教諭の先生と高校家庭科の連携として行ったプロジェクトです。各クラス1名の献立は、実際に小学校で約700食の給食に採用してくださいました。考案した生徒たちは小学5年生の教室で給食に招待していただき、小学生から直接感想を聞いたり、自分の作った給食の紹介をするなど、特別な時間を過ごすことが出来ました。

●11月3週目に、中学や大学 SDGs 推進研究所と連携し、フードドライブを行いました。本年度は9月に附属中学と連携し、9月に中学校へ高校1、2年生が訪問して話し合いを行い共同で啓発ポスターや動画を作り、校内の啓活動に用いました。

アフガン・ボランティア部の有志生徒たちが啓発活動を行い、大学 SDGs 推進研究所を訪問しました。

●高校1年生は、「家庭総合」の1月3学期最初の授業で、コーヒーの麻袋と、持参した自分の古布を用いて、アップサイクルのクラッチバック作りを行いました。このバックは、エシカルブランド KISSACO さんと、2015年にお茶高で開発したコラボバックです。インドやインドネシア、パプアニューギニア、ケニアなど、世界中のコーヒー産地から豆の輸入に用いられた麻袋を用いて、各生徒オリジナルのバックが出来ました。

●高校1年生「家庭総合」では、2026年1月22日（木）に附属中学1年生の家庭科の時間に訪問し、エシカルについて説明し、語り合いました。高校生は中学生との交流に、エシカル消費への理解や意欲を深めました。

●高校1年生「家庭総合」では、3学期の被服実習で、皆で（株）ゴールドウィン「地球にやさしい未来の服ひらめき展」に応募する服を製作しました。それぞれの生徒が考えた服と作品紹介カードは、2026年3月20日～29日に東京・青山のゴールドウィン本社で行われた展覧会で全作品を展示していただきました。作品には、日本人唯一のオートクチュールデザイナーで、サステナブルな服作りをなさっていらっしゃる中里唯馬さんや、ゴールドウィン社のさまざまな部署の社員の方々より丁寧なコメントをいただき、貴重な機会となりました。

●高校1年生「家庭総合」では、2月に、沖縄の伝統工芸について、様々な実物などを用いながら学び、沖縄の焼き物（やちむん）や漆器を用いるカフェメニューを考案し、実際に調理しました。1年生の学年とも連携し、沖縄の歴史を学んだ上で伝統工芸の本物に触

れ、体験することで、3年生の修学旅行にも思いを馳せました。本授業は前川財団の助成を受けて行われました。